REPORTER'S EYE

児童館の事業は皆さんの声を反映し、展開されます

【リポーター】
関口満里子さん（南入曽）

今回は、水野の森にある第四児童館をリポートしました。

地域のかたに支えられさまざまな事業を展開

私は、第四児童館で母親クラブのメンバーとして児童館の事業、行事などをお手伝いしています。第四児童館は複合施設で、同じ建物の中には水野公民館と水野学童保育室があります。複合施設は相互に利用できるという利点があり、大きなイベントのときに公民館のホールを使えたり、夏の一大イベント・水野の森の夏まつりのときなどは3施設が協力し、お祭りを実施できるなど、単独の施設とは違った事業が行えるのです。

皆さんは『児童館』が、どういうところだとお感じになっているでしょうか。「幼児や小学生ぐらいの子供たちが遊ぶところ」などと思っているかたもたくさんいらっしゃると思います。確かに、児童館というと子供のための施設と思われがちですが、そんなことはなく、各種教室やキャンプ、お祭りなどバラエティに富んだ事業が用意され、お父さんやお母さんが参加できるものもいっぱいあるのです。また、子供といっしょに安心して利用できるというのも児童館の魅力です。私が児童館を利用し始めたきっかけも、「組み木をやってみたい」と思い、クラブに入会したのが始まりでした。児童館を利用し、教室などに参加したり、母親クラブで事業のお手伝いなどをしていくうちに、普段はほとんど交流のなかった他の地区のお母さんがたとも知り合うことができ、たくさんの仲間ができました。子供も他の学校の子たちとも仲良くなり、「友達が増えた」と喜んでいました。

夏の一大イベント・水野の森の夏まつりは、毎年3千人以上のかたが訪れます

児童館の特徴として、開催される事業が児童館独自のものだけでなく、母親クラブやボランティアのかた、各支援団体そして地域のかたが提案した事業を積極的に実施しているということがあげられます。自分が得意なことややってみたいことなど、実際に自分がそれを子供たちに教えたり、子供たちといっしょに体験したりすることができるのです。この間も子供たちといっしょに遊びたいお父さんたちが集まった「おやじの会」が水野公民館ホールでミニ４駆大会を開催、１５０名の子供たちが参加し、大人も子供も大いに楽しみました。

山下副館長にお話を伺ったところ、「私たち職員だけでは児童館の事業は成り立ちません。ボランティアのかたや地域のかたの協力で成り立っているものがほとんどです。」とのことでした。そしてもうひとつ、地域のかたがたから「何をやって欲しい」、「私はこういうことを教えられるからやらせて欲しい」などの声（意見）をどんどんあげてもらい、地域の接点として、子供会や育成会など）でも利用して欲しいとも伺いました。これからは、公民館を利用しているお年寄りと子供たちの交流をもっと増やしていきたいとの考えもあるようです。また、子供に関する悩み事などをお聞きする『子ども家庭相談室』もありますので気軽に相談して欲しいそうです。

水野891－4 ☎58－7992（月曜・祝日は休館）

皆さんも「何かやってみたいこと」、「子供に関する悩み」など、児童館に相談してみてはいかがですか。私たちの地域にある施設を積極的に利用して、自分がここで学んだこと体験したことを地域に広げることも大切なことです。いろいろな仲間もできますし、利用していくうちに児童館のことが大好きになるはずです。水野の森にある第四児童館、皆さんもまず利用してみてください。

Opinion コーナー VOL.30

松本好史（よしふみ）さん（新狭山）

震災の教訓を生かし、市・事業者・住民が連携をとれるような体制を

平成７年１月17日に発生し、多くの被害を及ぼし、たくさんのかたの命を奪った阪神・淡路大震災から２年が経ちました。私も区画整理など街づくりに関わる仕事がら、被災地神戸の復興に向け、幾度となく現地で仕事をしてきました。区画整理の仕事も着々と進み、これからは建物などを建てる段階へと進んできましたが、現地では、まだ仮設住宅などに住み、これから先の生活がどうなるのかと不安を持つかたも多く、まだ震災の最中といった面が残っているのも事実です。この震災後、非常用具などを準備したかたも多いと思いますが、私たちは、次のステップとして、日常生活のなかで、救援や復興活動を行えるような体制を作っていくべきだと思います。それには、隣近所など地域のなかや市と事業者などが各方面で連携をとれるように準備し、市・事業者・住民それぞれが勉強会を開催するなど、何が必要なのかを予測し対策をたてていくことが大切だと思います。実際、現地を見ても、下地（準備）がしっかりしていた地域は復興するのも早かったようです。今、もう一度、私たちはあのときの悲惨な現場を思い出し、阪神・淡路大震災の教訓を防災対策やまちづくりなどに生かし、市・事業者・住民が連携をとれる体制を作り、万が一に備えたいものです。

狭山の生態系シリーズ㉓

カラスアゲハ

撮影…県生態系保護協会狭山支部 高橋昇さん（中新田）

カラスアゲハは、オスは前ばねの表にビロード状の毛（性標）があり、メスは後ばねの赤い紋が発達するので、たやすく区別できます。日本全国に広く分布し、伊豆諸島、奄美諸島、沖縄諸島などの離島では同じカラスアゲハでも違いができています。普通、成虫は年２回発生し、４月下旬ころからあらわれ、薄暗い林間を好み、オスはしばしば湿地や水辺で吸水します。幼虫は、キハダ、こくさぎ、サンショウなどのミカン科植物を食べ、さなぎで越冬します。

HOBBY

大串峰子さん（入間川）

レース編み

大串さんの趣味は『レース編み』。中学２年生のときに授業の課題でコースターを編んだのが始めてでした。最初は、そんなに好きでもなかったそうですが、作品が出来上がったときに感じた感動と充実感が忘れられず、それからもいろいろな形のコースターなどを編んできました。最近は、結婚のお祝いに、半年かけてテーブルクロスを編んで贈ったそうです。今は仕事が忙しく、編む時間も少ないそうですが、次はカーテンを編みたいと意欲満々です。

エネルギッシュ 狭山の企業㉓

大正四年創業の老舗は安くて美味しい和菓子を提供

株式会社水本屋 入間川3－2－26

株式会社水本屋は、大正四年に創業し和菓子の老舗として長い歴史を持ちます。数多い商品のなかでも小豆のしんだけで練ったあんをパイ生地で包んだ「茶つみパイ」が人気で、あっさりとした上品な味は水本屋の永遠の定番と言える逸品です。

現在は、和菓子作りのほか、パン製造、学校給食なども手掛け、平成二年には本社ビルを新築し、製パンラインを最新式の自動化ラインに一新、また、和菓子の分野でもロボットを導入し『安くて美味しい』和菓子を自動生産し、お客様の幅広いニーズに答えています。学校給食事業は、病院や保育園、小・中・高校の児童・生徒などに給食用パン・ご飯などを届けています。